

研究発表4-

「日本心身医療研究会」認定資格制度の導入経緯と目的

根本忠典¹⁾ 堀川ゆかり²⁾ 松井由佳³⁾ 鈴木瞬⁴⁾ 軒名桃子⁵⁾ 太田耕平⁶⁾

1) 心理士 2) かるた療法士 3) 絵画療法士 4) 介護福祉士・学び療法士 5) AL家族療法士 6) 医師

医療法人耕仁会 ピア・サポート部

1. はじめに・・・当院ピア・サポートの歴史 ～明るく楽しい医療を目指して～

当院では、戦前から農耕、除雪など作業班の仲間活動があった。1973年、AL症治療にピア・サポート活動(以下、ピア活動という)を導入(断酒例会)。回復者による支援の有効性を活かし、同療法を不登校・ひきこもり・家庭内暴力・摂食障害・自傷行為・薬物依存などにも拡大した。断薬会、女性の会、AL家族会、摂食障害の会などに発展。2004年、札幌ピアサポートの会を発足し、計320回開催(2011.3現在)。2006年、回復者・職員の趣味、特技を活かした遊戯・運動療法(小弓道療法など)を本格的に導入。これら多数のピア活動を総括し、サポーターを養成する目的から2011年、日本心身医療研究会を設立した。

2. 日本心身医療研究会(以下、日心研という)とは・・・

従来の経験を活かし、下記療法のサポーター、職員が、日心研の認定資格(1~3級)の修得内容を具体化しつつある。現在は、約200の多岐に渡る療法をシステム化し、各ドメインも取得した。母体の「日本心身医療研究会」の名称は、商標登録申請中(第41・44類、2区分)である。日心研認定資格は、1.日本内観療法士、2.日本家族療法士、3.日本十段階心理療法士、4.日本院内学級療法士、5.日本登校支援療法士、6.日本摂食支援療法士、7.日本女性依存療法士、8.日本学び療法士、9.日本アロマセラピー療法士、10.日本かるた療法士、11.日本フォークダンス療法士、12.日本絵画療法士・・・などがある。現在、既に幾つかの専門療法が活動している。今後は通院・入院者、デイケアメンバー、職員などを専門療法士と認定し、ホームページで情報公開する予定である。

3. 日本心身医療研究会の活動内容の一例

日本アルコール家族療法: 1977年、アルコールの問題を抱える家族の会(みつば会)を発足。現在、第2・4金曜日13時半~15時、当院職員食堂で開催。夫がアルコール症(以下ア症という)の妻のつどい、子供がア症の父母のつどい、妻がア症の夫のつどいなど、様々な工夫をしている。ア症の対応法を学び、今までの苦悩を語り心的外傷が癒される。家族の回復が、ア症本人や子供の問題行動の解決など、家族全体の健全化に役立つ。

日本学び療法: 学習療法士の認定資格を持つ職員が、思春期デイケアのメンバーを対象に学び療法を実施し、3人のピア・サポーターを養成。現在、週1回、認知症病棟でサポーターによる学び療法を継続開催中。高齢入院者の笑顔が、3人のサポーターの自信になっている。

日本かるた療法: 病棟、デイケア、老人保健施設、地域の集いなどで開催。百人一首、いろはかるた、都道府県かるた、懐メロかるたなど、楽しく賑やかに開催。立位が困難な方、車椅子の方も気軽に参加可能である。

日本絵画療法: 週1回、転写画法の偶然的な模様や、身近な画材を使用した自由画などを楽しんでいる。毎回4~5人の参加があり、静かな落ち着いた雰囲気です。

4. まとめ

参加者、支援者共に楽しむような上記作業療法、運動療法、遊戯療法、心理療法などの認定資格取得、後輩の育成指導、活動実績の公表(HP化)などの充実・達成感から明るさ、自信を回復した症例を多々経験している。治療方針、方法を患者に委ね、誰でも楽しく参加可能な受療者主体の医療は、症状や医療現場の改善に有効である。